

# ○ 義心鉄の如き

## 全山の労働者諸君に訴ふ!!!

### 情に輝く瞳を上げて見よ!!!

争議が起つてから已に四十有余日になります。この間、會社はあらゆる乱暴な壓制な方法をもつて、吾々を屈服せしめやうと努めて來ました。けれども、吾々は非常な不利な立場におかされたにも拘らず、よく會社の暴虐と壓制とに抗争して一歩も退かず勇敢に戦ひ續けて來ました。

會社は、全山の労働者に向つて、「組合は色々なことを云つたり、やつたりしてゐるが、要するに今に食糧と軍資金とに困つて數日を出でずして、屈服して終ふのだから、諸君は組合の者の云ふことなど聽いてはいけない云々」と絶へず宣傳して來ました。然しながら、組合の陣容は、或は治療打切といふ許すべからざる暴壓が加へられたにも拘らず、或は首といふ労働者に取つては忍ぶべからざる痛苦が加へられたにも拘らず、少しも動搖することなく、却つて益々結束が強固となり、策戦は健實を加へ、「全山の労働者のために如何なる犠牲を拂ふも最後まで戦ひ續けなければならん」といふ勇氣と、情熱とは猛烈に高まつて來たのであります。又會社は卑劣にも社會の公機である新聞紙を買収して、あることないこと、嘘八百を書き並べさせて、それを長屋に配つて、諸君の正しい判断力をニアラセやうとしました。そればかりではなく、下級僱員をして、恥も外聞も忘れた、見ツトモない、聞き苦しい出鱈目、出放題の嘘を長屋中にいひふらさして、諸君の目と耳とを胡魔化さうとしました。けれども、かうした努力も畢竟は氣の毒にも水の泡でした。

諸君は、正しい人間としての判断力を持ち、労働者としての立場を充分に識つておられるから、會社の僱員が、ごんな口先で甘いことをいつても、若しもそれを背めたら、毒が入つてゐること、若しもそれに觸つたら鋭いトゲがあつて身を傷つけることを充分に識つておられる、されば、今や、會社の一切の暴舉も壓制も、流言も、正しい道を履んで進む労働者に對しては、少しの効果もない事がハッキリと判りました。この形勢を見て、會社は狼狽し出した、アハテ出した、焦立出した。而して末期に近づいた狂犬のやうに盲目滅法にカミつかうとしてゐる。即ち、それが法律に觸れやうが、徳義に反しやうが、情誼に叛かうが一切合切おかまいなしに、只、「組合さへ潰したら」の一心で、何をやり出すか判らない有様であります。然し、會社が、ごんなに狂暴な行動を取つて來やうとも、吾々はビクともせなないで、堂々の陣を布いて最後の勝利に向つて猛進するのみです。それに必要な食糧米も、軍資金も充分に準備されてゐます。

諸君、諸君は争議開始以來の組合の態度と會社の取つた態度とについて、冷静に公平に御判断が願ひたい、それと同時に、働かなければ喰つて行けない労働者としての立場を、モウ一度ハッキリと見定めて、この際、さういふ態度を取るべきかの決心を定めて頂きたい。悪戦苦闘に勇氣百倍して争議團員は、諸君の義侠と、諸君の友情と、諸君の憤起を切望してゐます。而して安心と光明の彼岸に手を取り合つて進みます。これといふ熱烈な希望を懐いてゐます。